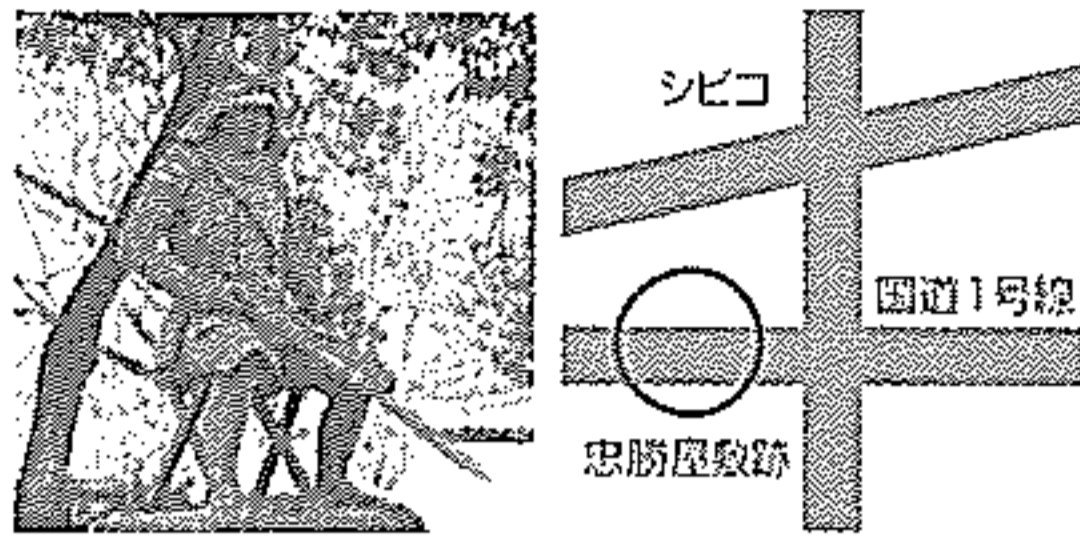


康生いつたい

本多忠勝の屋敷跡

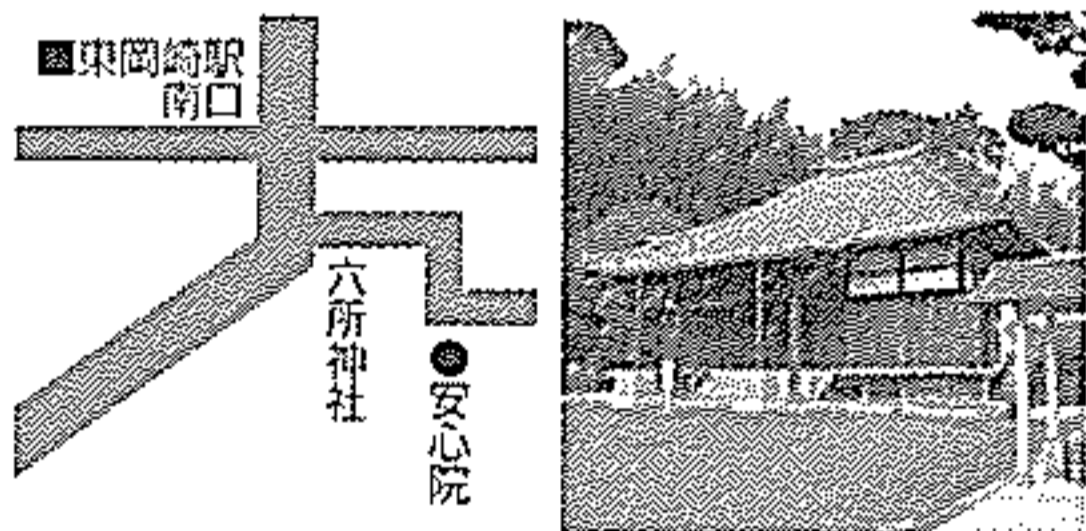


「家康に過ぎたるものが二つあり、唐の頭に本多平八」とうたわれた徳川四天王のひとり。生涯57度もの合戦に出陣し、ただの1度も怪我をしなかった知勇共に優れた武将。天文17年(1548)、西藏前に生まれ、洞町に育ちました。子孫は明和6年(1769)から明治まで、6代100年の間、岡崎藩主。本多家の儒学者が藩祖を慕い、家康公が城主だった時代の屋敷跡を特定しました。

■岡崎市康生通南2丁目あたり

東岡崎駅周辺

安心院 (あんしんいん)



源義経が浄瑠璃姫への愛の証として創建した妙大寺(みょうだいじ)の旧跡に建つ寺院です。本尊の十一面観音像は義経が浄瑠璃姫に贈った念持仏と伝えられています。町名の明大寺はこの妙大寺に由来します。本堂正面には1793年(寛政5年)の芭蕉百回忌に、伝馬通三丁目の十王堂に建立された「都出て 神も旅寝の 日数かな」の句を刻んだ句碑・旅寝塚があります。

■岡崎市明大寺町馬場東54

康生通の岡崎市電(1)

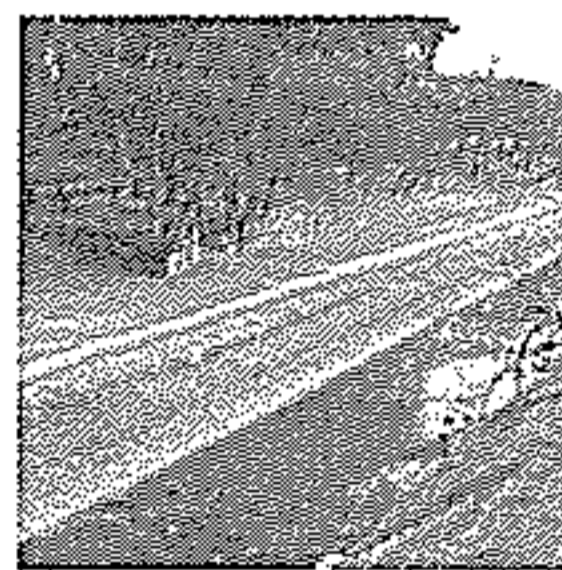
～貨物電車のお通りだい～



岡崎市電の名物だった貨物電車が康生町を行く珍しい写真。1961年(昭和36年)に撮影されたものです。町の中を貨物電車が走っているなんて、若い世代の人にはビックリでしょうね。その当時でも暗い茶色のボディは存在感もたっぷり、乗用車やトラックを圧倒していました。

※写真は「路面電車と街並み 岐阜・岡崎・豊橋」より

純情きらりのロケ地(1)



4月になるといよいよ岡崎の町を舞台とした、NHK朝の連続テレビ小説「純情きらり」の放送が開始。そのロケ地のひとつとなったのが、岡崎城天守閣の西にある伊賀川の河川敷です。

今年のお花見の陣取り合戦では、ここが一番人気になりますね。

■発行

電車どおり4商店街

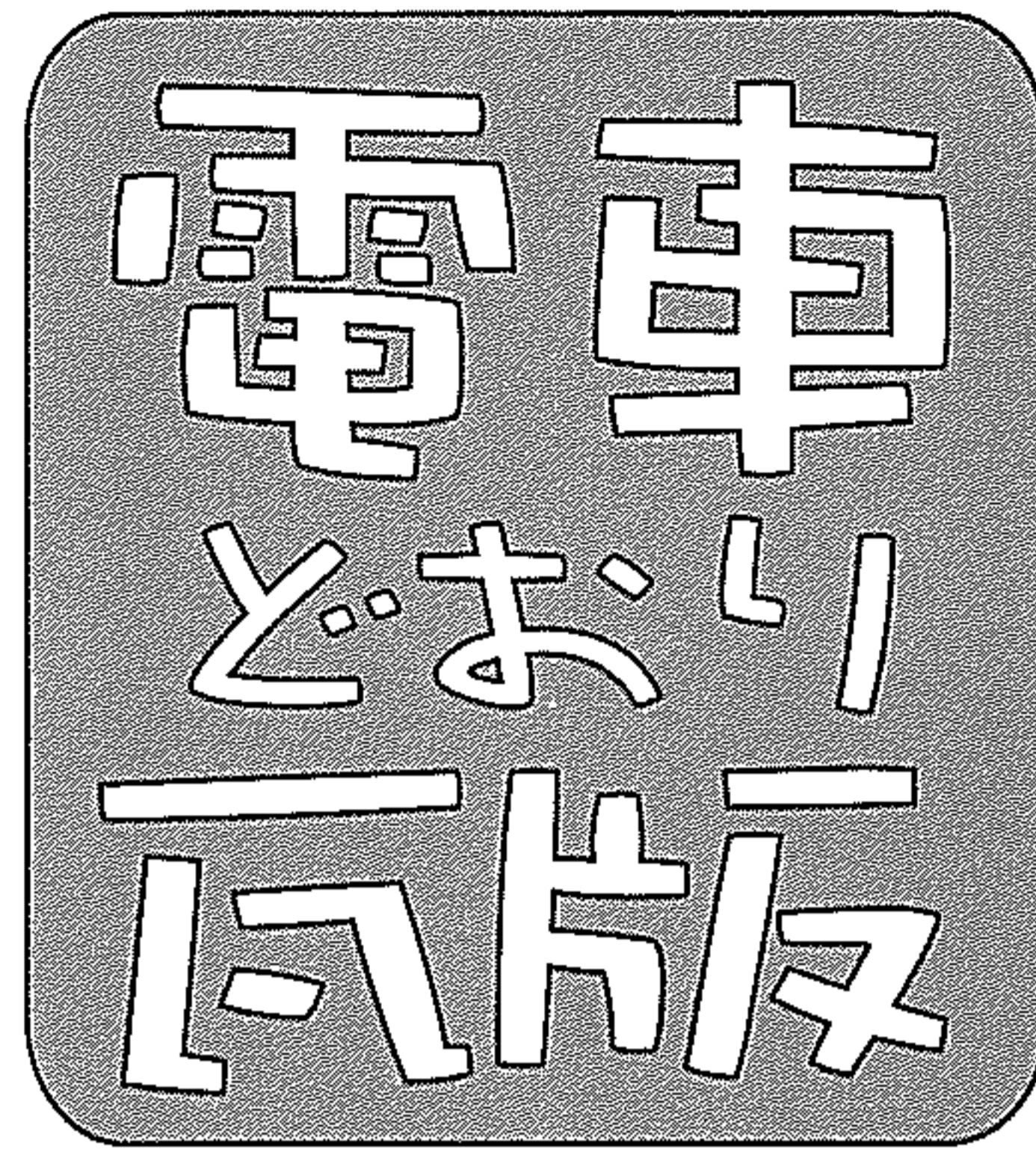
- 本町通三丁目商店街振興組合
- 岡崎銀座商店街振興組合
- 殿橋通発展会
- 岡崎明大寺商店街振興組合

■協力

岡崎商工会議所
岡崎市観光協会

■編集協力

三河・岡崎のタウン誌「リバーシブル」
岡崎江戸仲間



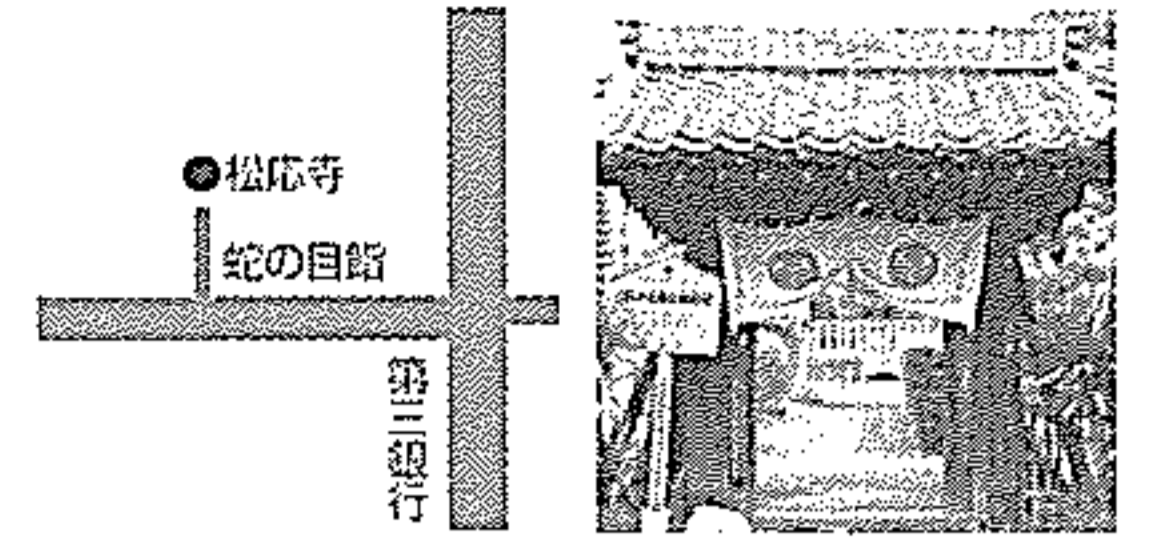
2006年(平成18年)3月・4月(第4号)



電車どおりの住人が近所のネットワーキングを活かして歩きを楽しめるオプスメのポイントを紹介します。

本町がいわい

松応寺 (しょうおうじ)

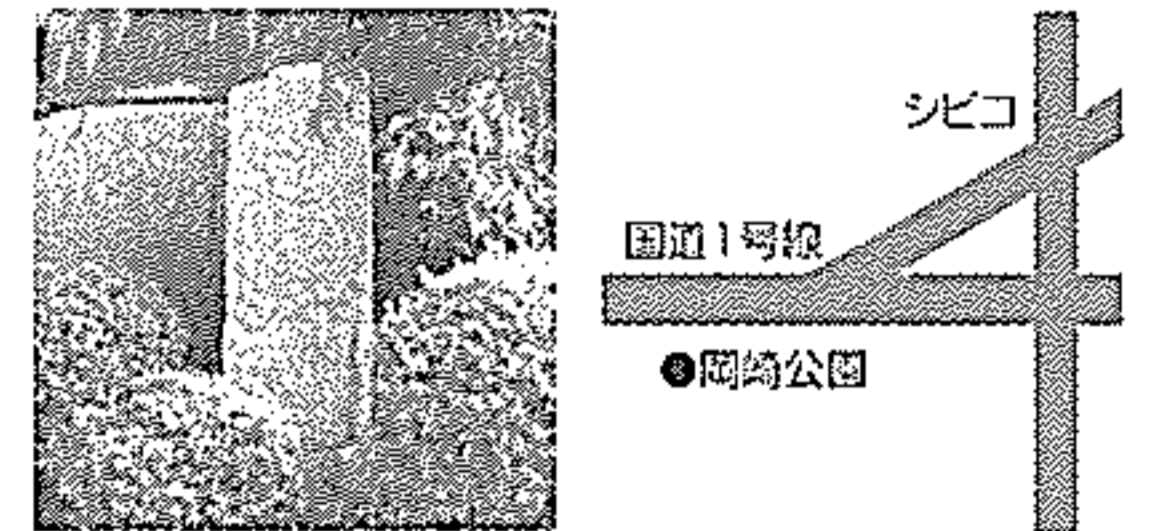


1549年(天文18年)、岡崎城内で父・松平広忠公が暗殺されると、徳川家康公は駿河の今川氏のもとで人質となりました。岡崎を去る家康公は、広忠公の埋地に1本の松を植え目印としました。桶狭間の合戦の後、岡崎に帰った家康公は、その松が青々と茂り、立派に目印の役割を果たしてくれたことを喜び、その地に広忠公の廟所を設け、寺の名も、松が応えてくれた寺、松応寺としました。

■岡崎市松本町42

殿橋のたもと

松尾芭蕉の桜句碑



1873年(明治6年)から翌年にかけて明治政府により岡崎城が取り壊され、これを嘆いた旧藩士を中心に、城跡を公園として保存する運動がおきました。1880年、全国で最も早い時期に国より公園の指定を受け、桜の植樹を行ったのが、岡崎が桜の名所となる始まりです。松尾芭蕉の「木のもとに 汁も膾(なます)も 桜かな」の句碑もこの時に建立されました。

■岡崎公園内、龍城神社の北東の植込